

感染症情報 11月11日～17日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1034例(堺市	56例)
②溶連菌感染症	500例(堺市	81例)
③RSウイルス感染症	153例(堺市	11例)
④伝染性紅斑	115例(堺市	15例)
⑤手足口病	96例(堺市	7例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 254例(堺市 35例)

感染症報告数は前週比23.0%増の2,190件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して44%増、堺市でも47%増であった。溶連菌感染症は府下で前週と比較して40%増、堺市で43例→81例は88%増、堺市の定点当たり4.26であった。RSウイルス感染症が府下で34%減、堺市は前週8例→今回11例であった。伝染性紅斑は府下で6%増、堺市で10例→15例であった。手足口病は府下で11%減、堺市で8例→7例であった。

インフルエンザが府下で前週139例→今回254例は83%増で、定点当たり0.46→0.84である。堺市では前週14例→今回35例で、堺市の定点当たり1.21は、流行開始の目安となる1.0を超えた。

麻疹の報告が府下で1例あり(堺市ではない)、年始からの府での累計は148例となった。風疹も府下で1例あり(堺市ではない)、年始からの府での累計は129例となった。